

第4回古賀市まちづくり基本条例検証委員会会議録

【日 時】 令和2年11月17日（火）19時～20時10分

【場 所】 古賀市役所302会議室

【出席者】

委員 水田洋司委員、田北雅裕委員、結城俊子委員、
石井嘉一郎委員、高村範亮委員、今村恵美子委員

事務局 北村まちづくり推進課長、澤木地域振興係長、智原業務主査

【傍聴者】 なし

【配付資料】

資料1 第3回検証委員会における議論に関する追加資料

資料2 古賀市まちづくり基本条例検証委員会答申（案）

【会議内容（概要）】

1. 開会あいさつ

（水田委員長が開会あいさつ）

2. 追加資料の説明

（事務局が資料1について説明）

（水田委員長）ただ今の説明について、質問等ある方は発言をお願いします。私から質問だが、子どもの生活に関するアンケートについて、回答者数は分かるか。

（事務局）小学校6年生及び中学校3年生の子どもとその保護者にアンケートを依頼しており、小学校6年生については570件中回答者数は557人、中学校3年生は528件中499人、小6保護者は570件中527人、中3保護者は528件中477人である。

（水田委員長）もうひとつ、相対的貧困率に関して、等価可処分所得中央値225万円というのは、福岡県や全国と比較してどの程度の水準なのか。

（事務局）中央値に関しては、平成30年の全国値が245万円である。

（田北副委員長）相対的貧困率については、全国では2019（令和元）年で13.5%。福岡県に関しては、相対的貧困率が県単位での数値を出していないのだが、ある大学が2015年から2016年に独自で算出したところ、全国ワースト4位だった。だから福岡県はその年以降子どもの貧困問題に力を入れてきたという経緯がある。

日本の貧困の特徴はワーキングプアでひとり親家庭、特に母子家庭という点が挙げられる。子どもの貧困に関する古賀市の指標を見ると、例えば子育てに関する相談相手の必要性・有無について、「相談できる人はいないが必要性を感じている」が、ひとり親家庭で18.8%いる

という現実がある。

(水田委員長) 他の項目についてもご意見等はないか。6の災害時応援協定については、災害が実際に起こった時にこういった支援を約束しているということか。

(事務局) その通り。

(水田委員長) 市の災害物資の備蓄状況は公表しているのか。ホームページ等で調べられるか。

(結城委員) 先日、小野校区運営協議会で総務課から小学校にある防災倉庫の中身を見せてもらった。そこで毛布や食糧品がどの程度備蓄されているのかを初めて知った。

(事務局) リスト等の公表は行っていないと思う。

(今村委員) そういったところも情報共有ということで取り組んでいただくと市民も安心すると思う。

大規模な防災訓練は古賀市では行われていないのか。

(事務局) 千鳥校区と古賀東校区、花見校区は校区コミュニティで主体的に取り組まれている。

(結城委員) 小野校区も一昨年玄望園で防災訓練が実施された際に参加した。

(水田委員長) 他にご意見等はないか。なければ、次に進む。

3. 答申(案)について

(事務局が資料2について説明)

(水田委員長) これまでの会議で議論されたことについて、こういったかたちでまとめていただいている。まずはこの答申案の構成について何かご意見はないか。特に話題になったことで漏れはないか。

(意見無し)

(水田委員長) それでは項目に沿って確認していく。まず2. 条例の見直しに伴う検証結果について。これまでさまざまな議論を行ってきたが、条例の規定については特に追加や変更する項目はないということだったので、そのような記載になっている。

「これからもずっと住み続けたいと誇れるまち」の先頭のかぎ括弧がないようだが。

(事務局) 修正する。

(高村委員) 4ページ目の(2)内の文章にも「ずっと住み続けたいと誇れるまち」という記載があるが、ここにも「これからも」を入れた方がいいのではないか。

(事務局) 修正する。

(水田委員長) 3. 条例施行後3年間の評価について。これについてはどうか。

(意見無し)

(水田委員長) 3. を受けて、4. 条例の推進及び適切な運用のために今後取り組むべきこと。

(意見無し)

(水田委員長) 最後の5. これからのまちづくりにおいて特に重要な事項。

(今村委員) 災害等への対応についてだが、私の住む地域には外国人が結構住んでいて、その方々とのコミュニケーションが難しいところがある。また住人も割と頻繁に入れ替わっていて、私は組長をしている時にコミュニケーションを図ろうとベトナム語を勉強していったら、次の時にはベトナム人がいなくなっていたこともあった。

初めのうちはゴミ出しの問題でしょっちゅうトラブルになっていたが、それもだんだん分かってきて、夜に大声で騒ぐということもなくなってきた。そういったことは全てその方々を雇用している会社に対応しているのだが、しかし本当はコミュニティとしてやることがあるのではないかと思っている。

(事務局) 今年度からまちづくり推進課に国際交流・多文化共生係という新しい係ができた。

やはり市長が多文化共生というところに課題があると考えていて、おそらく5、6万人レベルの自治体で専門の係を配置しているところは少ないと思う。古賀市には大規模な工業団地があり、他の同規模の自治体より外国人の数が多。人口に占める割合で1.5%程度である。

市としても、そういった部分には課題を持って今年度から取り組んでいるという状況である。

(田北副委員長) コロナ禍でブレーキがかかった面はあるが、今後確実に考えなくてはならない問題ではある。

(水田委員長) 他に。何か項目を追加した方がいいということはあるか。

(田北副委員長) 今回示していただいた追加資料の内容について、これらをどう扱うかというところはあるが。

子どもの問題に関しては、思っていたより相対的貧困率が高く、ひとり親家庭では相談したいけれど相談できる場所がないと感じている人が多くいると、この資料を見る限りでは感じるのだが、市役所の方々の実感としてもあるのであれば、何かしらそういった支援を必要としている人たちのことに言及してもいいのかもしれない。「安心して住み続けられる」という視点。今の資料だけでは何とも言えないが、その傾向も感じられたかなあという印象である。

先ほどの外国人の話も同じで、多様な人たち、社会的に弱い立場にある人たちも支え合うようなまちであるべきだ、という視点。

(水田委員長) 子どもの貧困率がこんなに高いということは非常にショックだ。19.1%ということは5人に1人ということになる。

(石井委員) 小学生の登校の見守りをしている実感からは、こんなに多くはないと感じるが。

(田北副委員長) 私が今調べたところ、古賀市では平成22年度のデータで、20歳未満の世帯員がいる一般世帯数6,520のうち、ひとり親世帯数が473、割合では約7.3%であり、その数値が年々増えている。

なかなか見えにくいですが、そういった困難を抱えている人たちがいるので、そういった状況を把握していくというか。

(水田委員長) これだけでは難しい。貧困世帯とひと言葉につづってしまうには、我々はあまりにも中身を知らなすぎる。だから答申として文章にまとめるとすると、かなり苦しいと感じる。

(田北副委員長) 実際、古賀市が子どもの未来応援プランを策定する時点で、これだけの数値が出ているのであれば、古賀市としてどういった施策を打ち出しているのか。

そのプランの中で力を入れている状況があれば、それは今の古賀市の中で大事にしなくてはならないことなので、答申に盛り込むことも考えられる。

(事務局) すべての児童福祉の施策について、「子どもの貧困対策」という視点を持って進めていくというかたちでプランはまとめられている。このプランで新たに目玉となる事業を、といったものではないと思う。詳細は担当課に確認しなければ正確にお答えはできないが。

(水田委員長) どうだろうか。5. これからのまちづくりにおいて特に重要な事項の中に、今日示されたデータや議論をもとに子どもの貧困について新たに項目を追加するかどうかということだが。

(田北副委員長) あまり具体的に貧困という言葉を入れなくとも、そういった「支え合うことの大切さ」のような視点はあってもいいかなと思うが。

(今村委員) 5.(2)の人権問題の項に記載されていることではある。

(水田委員長) 確かに、5.(2)で「子どもの貧困問題に総合的に取り組んでいく」という表現で記載されているので、それでとどめておこうか。

(異議無し)

(水田委員長) 答申案全体を通して、何かご意見はないか。

(意見無し)

(水田委員長) では、答申についてはご指摘があった軽微な修正を加えていただき、おおむねこの内容で決定したいと思う。

(事務局) では次回は、冒頭に最終的な確認をしていただき、市長に答申書を渡していただくということになる。

(水田委員長) 了解した。以上で第4回検証委員会を終了する。お疲れ様でした。